

進路だより

令和6年9月発行

富山県立高岡聴覚総合支援学校 進路指導部

高等部 インターンシップ

高等部福祉・サービス科2・3学年は6月6日(木)～19日(水)の10日間、生活情報科2学年は12日(水)～18日(火)の5日間、インターンシップを行いました。実際の職場での体験を通して社会経験を広め、働くことの意義について理解を深める良い機会となりました。

協力企業等 ～ありがとうございました～



インターンシップ先	主な仕事内容
社会福祉法人 大門福祉会 特別養護老人ホーム こぶし園	・介護補助 ・清掃 ・洗濯
株式会社とらいあんぐる	・消臭剤のろしまき ・部品の組立、袋詰め ・ラベルのカット
社会福祉法人 高岡南福祉会 特別養護老人ホームかがやき	・介護補助 ・米とぎ ・洗濯
コマツNTC株式会社	・清掃 ・書類の仕分け ・ラベル貼り
株式会社アフレックス	・おかずのカップ詰め ・調味料の計量 ・食器洗い
手をつなぐとなみ野 福祉作業所 あげぼの第一	・タオル畳み ・部品の組立て、袋詰め ・テープ留め

～生徒の感想より～

- ・自分から挨拶をすることができました。
- ・お茶を配ったときに、利用者さんに「ありがとう」と言ってもらえて嬉しかったです。
- ・食堂の清掃が丁寧にできました。
- ・身だしなみを整え、清潔にすることができました。

～保護者の感想より～

- ・家では見られない表情や様子が見られた。
- ・繰り返し取り組むことが大切だと思った。
- ・事業所の様子が分かってよかった。
- ・仕事にもう少ししっかり取り組んでほしい。

～体験先より～

- 【全体的に良かった点】
 - ・欠席や遅刻がない。
- 【個別に褒められたこと】
 - ・素直で職員みんなからかわいがられていた。
 - ・日を追うごとにてきぱきと仕事に取り組んでいた。
 - ・安心して仕事を任せられた。
 - ・2年前の体験に比べると挨拶の声がはっきり聞こえるようになった。
- 【課題】
 - ・自分からのコミュニケーションが少ない。
 - ・質問をしない。
 - ・働くために必要な体力がない。
 - ・午後から集中力がなくなる。

高等部 校内実習

福祉・サービス科1学年は、11月に行われるインターンシップの前段階として、6月11日(火)～13日(木)の3日間、校内実習を行いました。



ラベル貼り



学校のごみ箱洗い



幼稚園の掲示物製作
お兄さん、お姉さん作って～!!

～生徒の感想より～

- ・長時間の作業は大変でした。
- ・作業スピードを上げたいです。
- ・挨拶ができるようになりたいです。

小学部 仕事体験

小学部6学年は7月25日(木)に仕事体験を行い、仕事の達成感等、働くことについて学習しました。

～児童の感想より～

- ・動物が気持ちよく過ごせるように掃除を頑張りました。
- ・家でもクッキーを作ってみたいです。
- ・クッキーの生地作りが上手くできて良かったです。



高岡古城公園動物園



マナラニ カフェ



自立サポートJam

第1回 就労支援連携委員会

第1回就労支援連携委員会を7月16日(火)に開催しました。外部委員の方4名を交え、本校の進路指導や障害者雇用の現状と今後の展望、社会人として必要な力などについて意見交換を行いました。

【就労支援連携委員会 外部委員】

- | | |
|-----------------------------|---------|
| ・有限会社北砺ビルサービス 代表取締役社長 | 林 真次 氏 |
| ・ヴィスト株式会社 ヴィストキャリア高岡 センター長 | 浜名 莉那 氏 |
| ・砺波公共職業安定所 職業相談第三部門 統括職業指導官 | 齋藤 智子 氏 |
| ・砺波障害者就業・生活支援センター 就業支援ワーカー | 山田 敏彦 氏 |

～意見交換より～

- ・本校の生徒の長所は「素直」などである。挨拶については、改善が見られている。
- ・社会人としての基盤(挨拶、身だしなみ、時間厳守、体調管理)が重要である。学校生活と家庭生活の両方で身に付けていく必要がある。
- ・生活リズム(就寝時刻、食生活等)がとても重要である。平日だけではなく休日も同じリズムで生活することで、月曜に仕事に行きやすくなる。月曜日に不調になる障害者は少なくない。自分で連絡や報告をする経験を積ませてほしい(欠席連絡等)。期間限定のインターンシップでは頑張れるが、無期限雇用になると休みがちになる障害者は多い。製造業には作業の速度が求められるが、清掃には正確性がより求められる。生徒の適正に合った進路先を選択することが大切なのではないだろうか。身だしなみも練習させていきたい。継続する力を身に付けさせたい。
- ・A型事業所の工賃が上昇し、それに伴い納品ノルマも増えていると聞いている。多くの仕事をさばける作業速度と正確さを有する利用者のみが就労できる環境となってきている。その結果、B型事業所の利用者が増えている。
- ・就労移行支援事業所では、障害者や就労に困難を抱える利用者へ、就労までの支援を行なっている。ビジネスマナー、コミュニケーション講座等を実施し、社会人としての関わり方も学んでもらっている。企業見学にも職員が同行し、利用者との企業の橋渡しを行なっている。